

## 編集後記

本号では、神戸大学計算科学教育センターの東京大学名誉教授 小柳義夫様から、『エクスケールに向けて』と題する巻頭言でコンピュータ技術の進歩が急激であり、重要性はますます高まっているとの巻頭言を頂きました。記事には、当財団の志澤由久様より『都市全域の地震等自然災害シミュレーションに関する研究 (hp130015) の高度化支援作業結果報告』、中村賢様より『大規模シミュレーションを活用した新奇ナノ炭素による量子デバイスの創案に関する調査研究』という表題でそのコンピュータを利用した最新のシミュレーションに関する報告を頂きました。さらに日本原子力研究開発機構の佐藤薫様より『WAZA-ARI:CT撮影における患者の被ばく線量評価システム』という表題でインターネットの医療分野への応用に関して、中村博樹様より『セシウム高選択性吸着材ゼオライトに対する数値シミュレーション研究の進展：第一原

理計算及びモンテカルロ法による吸着性能評価』という表題で東京電力福島第一原子力発電所 (1F) 事故以降、放射性セシウムの優れた吸着材として注目されているゼオライトやフェロシア化合物等の吸着材としてのメカニズムの研究報告を頂き刊行の運びになりましたことを、厚く御礼申し上げます。

さて、年の初めに今年の干支の未はどのような年なのかインターネットで調べてみました。動物の羊を思い浮かべると平和、安泰のように思われますが、実は「(ひつじ) 辛抱」といわれ、ひたすら耐える年になるらしい。たとえば、相場格言では「辰巳 (たつみ) 天井、午 (うま) 尻下がり、未 (ひつじ) 辛抱と言われ、干支別の中でも上昇率は9番目で平均以下らしい。しかし、今年はアベノミクスでこの格言を吹き飛ばし、何年も続けてきたデフレからの脱却に期待します。 (中村)